

■イタリア：イタリア上院が原子力利用を盛り込んだ法案を可決

欧州エネルギー紙は2009年5月15日、イタリアの上院で原子力利用を盛り込んだ法案が可決されたことを受け、「イタリアは原子力発電の再導入に向け、また大きな一歩を踏み出した」と報じた。この法案は前日の5月14日、上院において賛成154、反対98、棄権3で可決された。同法案は今後、下院において最終的に可決された後、6月末には成立する見込みである。同法案には、原子力発電所及び処分場立地に関する基準を政府が法案成立後半年の間に政令として定めることなどが規定されている。イタリアにおける原子力発電の再導入は、2008年4月に行われた総選挙の際に、当選したベルルスコーニ首相が選挙公約として掲げ、2008年5月にはスカヨラ経済開発大臣が、石油やガスへの依存を軽減するため、原子力発電を導入する方針を示していた。イタリア政府は、2030年までに電力消費量の25%を原子力発電により供給する目標を立てている。